

2025年度 町田市立つくし野小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標 「よく考える子」「元気な子」「助け合う子」	学校経営の重点 ①子供が安心して通える学校を作る ②授業を充実させる ③教育活動の質を向上させる
○目指す学校像……①自他を大切に、互いに認め合える子どもが育つ学校(みんなで育つ 共生) ②自ら考え、判断し、行動できる子どもが育つ学校(みんなが伸びる 自立) ○目指す児童・生徒像……ふるさと つくし野を大切に作る子ども ○目指す教師像……①教育者としての高い志をもった教師 ②同僚と協働できる教師 ③新たな価値を生み出せる教師	重点目標の成果と課題 成果:①定期的に行われる校内委員会において、学習指導上及び生活指導上課題のある児童への対応を具体的かつ継続的に実施することで改善と変容がみられるようになった。 ②教育課程反省を年2回実施することにより、教職員の業務改善につながり、児童個々への対応する時間的余裕が生まれ、どの児童も安心して通える学校になってきた。 課題:①授業をデザインする力を高めることに課題が残った。校内研究及びOJT研修を通じて、継続的に力を高める方策を実施していく必要がある。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	教育活動の質を向上させる。(カリキュラム・マネジメントの確立 他)	カリキュラム・マネジメントを推進し、教育活動と経営活動を活性化させる。「いいと思ったら、すぐ改善」を推進していく。	教職員アンケート「授業や担当の校務で、具体的な取り組みを挙げ『いいと思ったら、すぐ改善』を実施した。」 4 毎回必ずした。 3 2回に1回はした。 2 3~4回に1回はした。 1 実施しなかった。	3.8	A	保護者アンケート「学校は、保護者や学校公開、学校行事などで、教育活動を公開している。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合の合計で判断する。 A 肯定的評価が90%以上 B 肯定的評価が80%以上 C 肯定的評価が70%以上 D 肯定的評価が70%未満	96	A	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人数の割合が、取組指標で3.8、成果指標で96%となった。 「ほぼ全教職員が「常に改善」という意識をもって職務にあたっていたことがわかる。 ・教育課程反省を年間二回(前期・後期)調査をかけ、年度途中でも改善・改革に取り組む流れができていく。このことが、保護者の広い賛同と理解につながったと感じる。 ・学校評価で得た情報や改善案は、常に「子供にとって」の改善策であるよう見直しの視点を再度徹底する。	・学校の取組に対して、多くの保護者から肯定的な評価をいただいた。引き続き日々の状況を注意深く見守り、少数意見にも耳を傾けながら、迅速で的確な取組内容となるように学校体制を強化していく。 ・学校評価で得た情報や改善案は、常に「子供にとって」の改善策であるよう見直しの視点を再度徹底する。	・取組指標も成果指標もとても高い評価となっているので、引き続き高水準を維持してもらいたい。 ・A	
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	授業を充実させる。	学びの基本を「学ぶ意欲」と捉え、「できた」「わかった」という学びを感じさせる指導を継続していく。 授業をデザインする力を高める。(導入、振り返り、板書など) 「返事をする」「めあてをもつ」「振り返りをする」「根拠をもつ」など、授業での学習習慣を育成する。	教職員アンケート「『できる』『わかる』喜びを味わわせるための指導の工夫に取り組んだ。」 4 毎時間取り組んだ。 3 80%以上の時間で取り組んだ。 2 70~79%の時間で取り組んだ。 1 取り組んだのは70%未満だった。 教職員アンケート「町田市『授業をデザインする8つの取り組み』を取り入れた授業づくりに取り組んだ。」 4 毎時間取り組んだ。 3 80%以上の時間で取り組んだ。 2 70~79%の時間で取り組んだ。 1 取り組んだのは70%未満だった。 教職員アンケート「『返事をする』『めあてをもつ』『振り返りをする』『根拠をもつ』など、授業での学習習慣を育成する取り組みを続けた。」 4 毎時間取り組んだ。 3 80%以上の時間で取り組んだ。 2 70~79%の時間で取り組んだ。 1 取り組んだのは70%未満だった。	3.7	A	保護者アンケート「お子様は、ICT(学習機器)を積極的に活用している。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合の合計で判断する。 A 肯定的評価が90%以上 B 肯定的評価が80%以上 C 肯定的評価が70%以上 D 肯定的評価が70%未満 保護者アンケート「お子様は、各教科の基礎的・基本的な事柄が身に付いている」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合の合計で判断する。 A 肯定的評価が90%以上 B 肯定的評価が80%以上 C 肯定的評価が70%以上 D 肯定的評価が70%未満 保護者アンケート「お子様は、宿題や家庭学習に積極的に取り組んでいる」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合の合計で判断する。 A 肯定的評価が90%以上 B 肯定的評価が80%以上 C 肯定的評価が70%以上 D 肯定的評価が70%未満	74	B	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人数の割合が、取組指標では3.7と高評価であったが、成果指標で74%となった。 ・昨年比成果指標は12%増だが、取組指標の高からは乖離している。 ・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人数の割合は取組指標で3.5、成果指標は87%である。 ・保護者には、概ね学校での授業が児童の学習理解に結びついているとの実感を感じていただいている。 ・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人数の割合が、取組指標で3.8、成果指標は71%に止まった。 ・学校での学習習慣が、家庭学習の中にあまり反映されていない傾向が窺える。	・徐々にではあるが活用に関して保護者の認知も広がっている。課題は、低学年の活用範囲を広げることと捉えている。教員の活用スキルを上げていくとともに、キュビナ等のアプリ活用情報を校外外から収集し、活用の幅を広げていく。 ・同地区内の他校へ研究授業等を相互参観する取組を経て、教職員の授業改革に向けた機運が高まってきた。次年度も自校の枠を超えた学校間の学び合いを重ね、そこで得たノウハウを児童に還元していく。 ・今後も全教職員共通理解のもと学習規律を重視した授業を展開するとともに、家庭学習の取り組み方について十分指導を重ねていく。同時に、課題の精選や評価について改善を図り、取り組む意識を高める工夫が必要と考える。	・昨年比12%増となり、B評価に上がった項目は、学校側の姿勢が児童や保護者に伝わった結果と感じる。 ・取組指標との差は確かにあるが、改善策をうまく取り込むことで数値・評価ともより高めてもらいたい。 ・ICTについては年齢の幅が広く、難しい面もあると思うが、引き続き取り組んでほしい。 ・B	
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	子供が安心して通える学校をつくる。	「つくし野小学校いじめ防止基本方針」を基に、いじめ防止校内委員会の活動を充実させ「いじめ見逃しゼロ」を実現する。また「不登校ゼロ」を目指す。 スクールカウンセラーや巡回心理士の助言を仰いだり、ケース会議を開催し情報共有したりして、即座に対応できる校内体制を強化していく。	教職員アンケート「『こころのアンケート』実施後、気になる児童と面談した。」 4 毎回必ずした。 3 2回に1回はした。 2 3~4回に1回はした。 1 実施しなかった。 教職員アンケート「気になる児童について、生活指導主任や学年主任、特別支援教育コーディネーターなどに報告・相談した。」 4 必ず報告・相談した。 3 2回に1回は報告・相談した。 2 3~4回に1回は報告・相談した。 1 報告・相談しなかった。	4	A	保護者アンケート「学校は、いじめ防止や不登校防止に取り組んでいる」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合の合計で判断する。 A 肯定的評価が90%以上 B 肯定的評価が80%以上 C 肯定的評価が70%以上 D 肯定的評価が70%未満	76	B	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人数の割合が、取組指標で4(100%)、成果指標で76%となった。「分からない、無回答」と答えた保護者割合が15%と多い。 ・上記の結果から「いじめ対応」や「関係機関との連携」「教育相談」などは、教職員は対策及び防止策は十分に行っているが、保護者にはその具体的な様子が伝わっていない部分があることが窺える。	・個々の保護者に対しては、これまで通り対応と取組について丁寧に伝えるとともに、解決に向けスピード感をもって対応する。 ・年齢や経験による違いを少なくするために、教職員に対して研修を実施する。 ・保護者に対しては、学校だけでなくHP、学校公開や授業公開などを通して、学校全体としての取組や対応について知る機会を増やし理解と賛同を得ていく。	・児童への指導に保護者が無関心だったり、感じ取る「眼」がなかったりするのかが不明だが、成果指標で「分からない」と回答した保護者への対応は改善策を駆使することでも数値の減少につながるとよいと思う。 ・B	
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実させる。	子供が安心して通える学校をつくる。	「つくし野スタンダード」を生かし、学習や生活のルールを明確に示し、周知徹底させる。学校のルールを守らせて、安全に、安心して生活をさせていく。	教職員アンケート「つくし野スタンダードの取り組み状況を児童に振り返らせた。」 4 毎月振り返りをさせた。 3 2、3か月に1回振り返りをさせた。 2 半年に1回、振り返りをさせた。 1 振り返りをさせなかった。 教職員アンケート「つくし野スタンダードについて、児童と話し合う場面を作った。」 4 毎週作った。 3 月に1回程度作った。 2 半年に1回程度作った。 1 実施しなかった。	4	A	保護者アンケート「学校のきまりや家庭でのきまりを守っている」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合の合計で判断する。 A 肯定的評価が90%以上 B 肯定的評価が80%以上 C 肯定的評価が70%以上 D 肯定的評価が70%未満	90	A	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた人数の割合が、取組指標で4(100%)、成果指標で90%となった。 ・学校での取組について、保護者の協力が得られた結果である。	・アンケートの結果から、教職員は一人丸となって共通認識のもと、しっかりと取り組んできたことが分かった。来年度も年度初めに教職員一人一人に目標設定をさせ、継続的に取り組ませていく。また、今後も学校での取組をより理解してもらうため、学校だけでなく学年だより、HPを通じて、決まりや規律を守る重要性等について繰り返し発信を続け、学校公開時や授業公開時に実践の様子を見ていただき理解と協力を得る。	・情報発信や開かれた姿勢に対する部分の評価されたと感じる。 ・取組指標も成果指標もとても高い評価となっているので、引き続き高い水準を維持してもらいたいと考える。 ・A	
その他													

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 60%以上⇒評価C 成果指標平均 60%未満⇒評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。
※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。